

3. 喜多見地区の課題と取り組み

喜多見地区は南北に長く、それぞれ課題も異なるため、4つのブロックに分けて課題と対策を検討した。

【A班（喜多見北部町会・喜多見西部町会）】

初期消火

- ①課題 まちの消火器
今後の取り組み 行政だけでなく家庭内でも消火器を増やすようにする。
- ②課題 スタンドパイプの導入
今後の取り組み スタンドパイプの設置場所を含め、具体的な導入を検討する。

安否確認

- ①課題 町会による要配慮者の支援
今後の取り組み 行政に全て任せるのではなく、まちで避難計画をしていく必要がある。
 - ・希望者を募って事前に話し合いを行い、要配慮者や障害のある方々がどのような不安を抱えているかを聞き、防災対策に取り入れていく。

避難誘導

- ①課題 避難所が少なく、場所も遠い
今後の取り組み 公共施設に頼るのではなく、私有地にも交渉して避難できる場所を増やす。
 - ・「災害時における相互応援協定」を結んでいる粕江市の学校のほうが近いのでこちらにも避難できるように訓練する。
- ②課題 避難を優先する
今後の取り組み 火災への対処に重点を置くのではなく、まずは自らの命を助けることを第一とするように周知していく。

情報収集・情報伝達

- ①課題 町会が活動するための地区防災本部が必要
今後の取り組み 北部町会と西部町会との合同で地域住民に情報収集・伝達のための拠点を作りたい。
 - ・喜多見地区会館の耐震性も含め、どこに設置するかを検討する。
- ②課題 災害時の情報収集・伝達手段の確保
今後の取り組み メール・PHS・スマートフォンのアプリ・LINE・Skypeなどできるだけ多くの手段を活用する。
 - ・日頃から練習をしておく。

- ・町会役員と区との情報のやり取りは公衆電話（喜多見地区会館に設置済み）を前提に、PHS 等でもやり取りができるよう検討する。

避難生活

- ①課題 食糧等非常用物品を備蓄する場所が少ない
- 今後の取り組み
- ・スーパー・ガソリンスタンドと協定を結んで災害時に食糧・燃料を提供してもらえるようにする。
 - ・行政から届く物資は避難所までしか届かないので、避難所から地域住民にいかに届けるかを考える。
- ②課題 生活用水の確保
- 今後の取り組み
- ・水道管の状況を確認し、スタンドパイプの活用を検討する。
 - ・井戸の確認等を行って水を確保する。

【B 班（喜多見東部町会・喜多見上部自治会）】

安否確認

- ①課題 近所とつながりが少なくなり安否確認が困難
- 今後の取り組み
- ・若い世代とのつながりを広げるため、小学校と町会が協力する。
 - ・避難所運営訓練で運営に携わっている町会員と若い世代（ファミリー層など）が顔見知りになってもらうため、PTA（お母さんたち）や家族も避難所運営訓練に参加してもらうようにする。
 - ・高齢者（特に一人暮らし）に関しては、地域でどのくらいの人数がいるのかをまず把握する。
 - ・町会・自治会の更に小さい組・班の単位で、日常的なつながりを強くする。

情報収集・情報伝達

- ①課題 地域とのつながりが少ない
- 今後の取り組み
- ・町会自治会への加入を増やしていく。他町会ではごみ収集日に町会役員が待っていて、来た人に町会自治会の加入を勧めているようなので、このような活動を取り入れる。
 - ・若い人向けにスマートフォンなどを使用して情報伝達するシステムの構築、町会自治会加入 PR、町会に加入すればどのようなメリットがあるか PR をするアイデアを考える。
 - ・要援護者すべての人への情報伝達の仕組みを作る。

避難生活

- ①課題 どこに防災資機材・食糧があるかわからない
- 今後の取り組み
- ・防災塾のように町会自治会にある物資の備蓄場所を、新たに設

置した場所を含めて情報共有できるのは非常に良いのでこのような場に町会から積極的に参加する。

●防災マニュアルを自治会加入世帯に配布する。

②課題 災害時の町会員のとるべき行動がわからない

今後の取り組み ●避難所運営については、マニュアルがあるので、毎年訓練を行い内容を確認する。

●想定外の事態が起こったらどうすべきかは今後検討する。

●機材・食糧は各世帯でも準備してもらうようにPRする。

【C班（喜多見中部町会・喜多見二丁目団地自治会）】

初期消火

①課題 初期消火の方法(D級ポンプの使用方法など)がよくわからない

今後の取り組み ●D級ポンプの訓練は行っているが、今後も徹底的に行う。

●防災資機材が実際に使用できるか定期的にチェックする。

②課題 喜多見中部町会のD型ポンプは、現在喜多見中学校の近くに設置してあるが、この位置では運搬に問題があり災害時に使えない可能性がある。

今後の取り組み ●D級ポンプの設置場所を再検討する。

●機動性の高いスタンドパイプについても設置を検討する。

③課題 消火器の使い方がわからない。

今後の取り組み 団地自治会では消火器の演習訓練を実施しているが、中部町会では実施していないので、今後は防災訓練等で取り入れる。

安否確認

①課題 安否確認をどうしていくのか。

今後の取り組み 町会による安否確認の流れを検討する。

避難誘導

①課題 団地ではフロア同士は連絡できるが、階ごとの情報伝達が難しい

今後の取り組み ドアに無事である旨の張り紙や窓・ベランダに色付きの布・ハンカチなどで確認できるようにする。

②課題 中部町会の地域から喜多見中学校への避難経路に氷川神社やお寺があるが、その周辺は塀などが倒れることが予想される。震災時に誰が安全を確認し情報伝達するか、どこに発信するかなどの役割が決まっていない。

今後の取り組み ●安全な避難経路があるので、実際に歩いて確認する訓練をする。

●避難経路にあるお寺と合同で避難訓練をする。

●お寺に避難できるように連携する。

- ③課題 高齢者・負傷者をどう避難させるか
今後の取り組み 担架では運びづらい。また、リヤカーは2台しかないので、方法を見直す。

情報収集・情報伝達

- ①課題 消火器・消火栓の位置がわからない
今後の取り組み ①消火器・消火栓の位置を載せたマップを作成する。
②消火栓等の設置現場を確認すると、消火器ボックスが色あせて目立っていないところがあったので、色塗りをする、場所を再確認する等の対応をする。
③マップは団地自治会の人でも使えるので、今後は町会同士共有をする。
- ②課題 AEDの位置がよくわからない
今後の取り組み ①防災塾などで町会・学校・公共施設から出席した方々から AEDの位置を確認しあうと、どこにあるかがわかった。今後もこのような場に町会から積極的に参加する。
②2町会の配備されている物品の情報を共有する。
- ③課題 トランシーバーだけでは情報伝達・収集には不十分
今後の取り組み 町会で使える PHS 等の設置を検討する。

避難生活

- ①課題 避難所で全ての人のケアをするのは難しい。各々の自助意識も高める必要がある。
今後の取り組み 各家庭で食糧を1週間分備蓄してもらうように町会で声かけをする。
- ②課題 避難所に外部の人が来たときの対応方法はどうするのか
今後の取り組み 避難者が避難所に押し寄せてきた場合、混乱をおこさないために外部の人の受付方法を確立する。
・町会の名簿、一般の名簿をわけするなど

その他

- ①課題 この地域は医療機関が少ない
今後の取り組み ①自分たちで基本的なことは対応できるように止血方法などの応急対応を訓練する。
②医療施設にどうやって負傷者をつれていくか考える。
- ②課題 高齢者が多いと災害時の力仕事が進まない
今後の取り組み 中学生が東日本大震災のとき、非常に力になった。この地域で災害が起きたときも様々な面で協力してもらえるように、学校と連携する。

初期消火

- ①課題 消火器の数が少ない。
今後の取り組み 自宅で消火器を準備するように働きかける。
- ②課題 スタンドパイプの使用がよくわからない
今後の取り組み 使い方を訓練する必要があるため、通常の訓練の中にスタンドパイプの訓練も加えるようにする。また、スタンドパイプで実際に水を出すことが出来る場を探す。

安否確認

- ①課題 近所に誰が住んでいるかよくわかっていない
今後の取り組み 安否確認のためには顔見知りになることが重要である。そのためだけにイベントを新たに企画するには町会の負担が大きいため、普段行っている防災訓練に参加してもらうように促す。
地域の中ではあいさつ運動が重要になってくるので、日々のあいさつを心掛ける。

避難誘導

- ①課題 川に囲まれている地域なので、どのように避難すればよいかわからない。
今後の取り組み 水害がない場合は自宅避難を前提として、対策を考えていく。

情報収集・情報伝達

- ①課題 大雨のときは防災無線放送が聞こえない。
今後の取り組み 防災無線放送だけに頼らない情報共有の方法を検討する。
区の防災メールを登録するようにする。

水害対策

- ①課題 この地域は水害が多い。橋が破損し、使えなくなった場合は避難所の学校まで物資を取りに行くことが困難になる。
今後の取り組み 町会内にある倉庫内に備蓄をし、配給できるような形を取る。
各家庭だけでなく、老人ホームや大学・企業等にも備蓄を呼びかける。
- ②課題 この地域は揺れやすいが、このことに関して情報が共有されていない。
今後の取り組み 新しく引っ越してきた住民には揺れやすいことを周知し、揺れの対策をするように呼びかける。